

## 留学報告書 2014 年冬

University of Oxford, Computer Science

五十嵐歩美

2014 年 10 月から本格的に留学生活が始まり、瞬く間に 2 ヶ月が過ぎました。こちらに来るまでは、全く想像のつかなかったオックスフォードでの生活に徐々に慣れてきたところです。現在 2014 年 12 月 4 日の午後 4 時、どことなく外の天気は既に薄暗く、カレッジの寮の部屋で一人鼻をすすりながらタイプをたたいています。到着当初は物珍しかった、厳かな建物群も日常の光景になってきました。この街と大学についてまだまだ知らないことはたくさんありますが、この 2 ヶ月間で印象に残ったことを書いていきます。

### 1 オックスフォードについて

まずオックスフォードは、街全体の環境がとても良いです。街も学生も生き生きとしていて、ここに住んでいて飽きることはありません。毎週これでもかというほど、学会、コンサートなど、何かしらのイベントが催されています。また、所属しているカレッジ（寮のようなもの）や学部では、学生間の交流の場が数多くあります。これは、引きこもりがちな大学院生にとって、とてもありがたいことです。イギリスの天気は評判通り雨がよく降り、特に冬は日照時間も短く、気分が滅入ることもあります。それでも明るく元気に暮らせていけるのは、この街と大学の活発さによるものだと思います。

街がコンパクトにまとまっている点も気に入っています。ほとんどの大学の建物が 1 平方マイル弱に集約されており、市の中心部に密集しているため、必要な移動は徒歩で済みます。日本にいたときは、通学に往復 3 時間かけていたこともあり、この便の良さには感動しました。じっくり教科書や論文を読む時間がずいぶん増えた気がします。

意外な発見は、数学科や計算機科学科の女性比率の高さです。日本では、数学科やそれに関連する学科に進学する女子学生は非常に少なく、ましてやそれらの分野の博士課程に進む女子学生ならなおさら稀です。オックスフォードでは、思いの外、同性の友達に多く巡り会えて心強く感じています。同じオフィスのマレーシア人の女の子とは、よく一緒にランチに行ったり、お茶をしたり良いおしゃべり仲間です。また、「Women's ~ Society」という名を冠する団体も数多く存在し、積極的に女性研究者のキャリアを支援していこうという姿勢が見受けられます。

## 2 学習・研究環境について

私のプログラムの一年目は、博士課程のための準備期間とされています。授業をいくつかとり、term paper と呼ばれるミニ論文をまとめ、研究計画書を書くことが二年目に進むための要件となっています。今学期は、毎週2つほどセミナー (Algorithms Group と Algorithmic Game Theory Group のセミナー) に参加し、1つ授業 (計算理論の基礎) をとり、研究 (黙々と論文を読み考える) をし、指導教官と週に1時間ほど議論する時間をとってもらいました。振り返ってみると、予想以上に授業の予習復習に多くの時間を割きました。オックスフォードでは、各学期が2ヶ月と非常に短く、かつ授業でカバーする範囲が広いため、学生は授業のスピードに必死についていかなければなりません。私は正直なところ、授業に時間を費やすことで、研究に全力を注げないもどかしさを感じました。しかし、学期が終わってみれば不思議と達成感があります。スタンフォード大学の Tim Roughgarden 先生は、  
“Back when I was a student, my favorite classes were always the challenging ones that, after I struggled through them, left me feeling a few IQ points smarter than when I started.”

とオンライン講座でおっしゃっています。計算量関連の話は自分の苦手分野でしたが、毎週の課題や Reading をこなし、短時間で体系的に知識を身につけることによって、以前よりぐっと見通しが良くなったと感じています。

こちらの研究スタイルですが、“interactive” という印象を抱いています。何か議論したいことがあれば、人に声を掛けて気軽にどこでも議論する。そのことを表しているのが、ホワイトボードの多さです。学部内の至る所に、すぐに数式を書ける場所があり、セミナー後によく友達とわからなかった点について議論しています。昨年新築した Mathematical Institute の Common Room には机がホワイトボード代わりになる代物もあります。

たんとんと書いてしまいましたが、思い返せば非常に充実した2ヶ月間でした。海外生活で何といっても面白いことの一つは、今まで知らなかった世界の扉が一つ増えることだと思います。それまで当たり前だった環境から少し距離を置き、全く異なる環境に身を置くことで人生の色彩がより豊かになります。以上で今回の報告を終えますが、一番肝心の自分の研究について何も触れていないので、次回以降にもう少し書きたいと思います。